

令和6年度 名古屋市公共事業評価監視委員懇談会 委員からの提言

① 名古屋都市圏の活力を高め広域交流を支える道路ネットワークの整備（緑政土木局）

- ・目標値を達成した旅行時間の改善については、今後の更なる改善事項として、周辺の未整備道路が整備されることで交通量が分散することにより、さらに事業効果の発現が見込める等の情報を入れるとよい。
- ・最終目標値を達成できなかった指標については、達成できなかった背景について記載を行い、今後どのように取り組めば、目標値を達成できるのかの考察も丁寧に記載するとよい。
- ・特記事項については、計画についてイメージが湧くように具体的に記載を行うとよい。

② 中村地区都市再生整備計画（都市構造再編集中支援事業）（スポーツ市民局）

- ・様々な施設を集約し機能を高めることのメリットは大きい。
- ・評価指標を設定した経緯や、評価指標の達成状況の背景や分析したことについて、丁寧な説明をするとともに、公表する資料にも記載をするべき。
- ・今回の評価にあたって得られたデータを今後のまちづくりにつなげていけるとよい。

③ 栄・伏見・大須地区（第2期）都市再生整備計画（まちなかウォーカブル推進事業）（住宅都市局）

- ・歩きやすい空間ができており、引き続き進めていただきたい事業である。
- ・わかりやすい公表資料となるよう、評価指標に対する結果についての解釈や内訳を記載するなど、具体的な記述を追記するとよい。
- ・特に、公表資料のうち、まちの課題の変化と今後のまちづくりの方策の欄には、例えば回遊性の向上など、どういうまちづくりをしたいかを丁寧に記載するべき。
- ・放置自転車のさらなる抑制対策や、自転車通行空間確保の取り組みについても記載できるとよい。

④ 中川運河にぎわいゾーン地区都市再生整備計画（まちなかウォークアブル推進事業）（住宅都市局）

- ・今後の整備に期待する事業であり、引き続き推進して欲しい。
- ・公表資料は、わかりやすい言葉や具体的な指標の説明を加えるとよい。
- ・にぎわいや憩いをもたらす運河という目標に対して、これらを両立できる最適な目標値が設定できるとよい。
- ・民間事業者が行う事業ではあるが、多様な利用者への配慮がなされるような仕組みができるとよい。

⑤ 地域居住機能再生推進事業（住宅都市局）

- ・今後も継続する事業となるので、全体の事業に対しての進捗を示すとともに、 B/C （費用便益比）が1以下となるが、国の基準は満たしている旨の説明が必要。
- ・貨幣換算が困難な効果として、防災拠点について記載できるとよい。
- ・再評価の視点として、耐震性が既に確保されている旨や耐震性の必要性を強調して記載をするべき。また、断熱性や環境配慮の視点も記載できるとよい。
- ・今後、時代の変化に合わせて標準設計の基準の見直しをぜひお願いしたい。
- ・公営住宅の在り方として、防災拠点やコミュニティの核となるような地域の実情に合わせた施設が含まれるとよい。

⑥ 堀川事業間連携河川事業（緑政土木局）

- ・ B/C （費用便益比）も大きく出ており、効果が高くてよい。
- ・ B/C （費用便益比）の算出条件等を記載するとより説得力が増すのではないかな。また、事業を実施したことにより浸水被害が軽減するエリアは、住民だけでなく来街者が多い点も記載すると、より効果が大きい事業だとわかってよいのではないかな。
- ・浸水被害軽減効果として、浸水面積の比較だけではなく、浸水深の変化などの効果を評価してもよい。
- ・下水道事業との連携で相乗的に効果が増すのであれば、その点の記載もあるとよい。